

## 第3回策定委員会における委員からの意見・要望への対応について

No.	意見・要望	対応・回答	担当課
1	<p>2ページの「(2)実体験を伴う読書と親しむ機会の充実」について、読書劇という言葉が頭にきてしまうと、具体例な取組詳細の幅を狭めてしまう。書籍という文言に変えていただいた方が取組の幅が広がると思う。</p> <p>また、体験型朗読劇を見ることだけが実体験につながるかというと少し弱い。紙飛行機の絵本を元に紙飛行機を作って飛ばすとか、工作の本を県立大学の学生さんと共にやるような機会とか、様々な鳥の巣を扱った科学絵本などを使って森の中で体験と絵本がつながるような活動を企画し、子どもの体験と重ねるような場を作ることで、特に幼児期の子ども達にとっては、この項目が生きてくると考える。</p>	<p>2ページ「(2)実体験を伴う読書と親しむ機会の充実」の具体的取組「読書劇など、五感を通した読書に親しむイベント等の開催」を「五感を通して書籍に親しむイベント等の開催」に修正する。</p> <p>取組内容詳細に記載の「県立大学生による体験型朗読劇」は令和元年度に親子わくわくフェスタ内で実施したものである。この朗読劇は、演者と観客が一緒におはなしの世界を共有・体験するもので、絵本「どろぼうがっこう」の朗読劇では、子どもたちが会場内の障害物を避けながら忍び足で歩き、泥棒学校の生徒になりきった。委員よりいただいたご意見については今後のイベントの参考とさせていただきます。</p>	家庭・地域学びの課
2	<p>9ページの「(8)特別な支援を必要とする子どもの読書環境の充実」というところで、取組内容には「障害をもつ子」と表現されているが、見出しと同じように「特別な支援を必要とする子」という表現の方が良いのではないかと。視覚障害に限定せず、生きづらさや学びづらさを抱えている子どもたちを幅広く含めることができると思う。</p>	「特別な支援を必要とする子」という表現に変更していきたい。	長野図書館
3	<p>図書館に(図書を)音で聞くことができるCDがあるという話があったが、それを子育て中で本を読む時間が無い方々へ周知するために、家庭・地域学びの課が作成するブックリストへ紹介文を入れていただきたい。</p>	おひざで絵本事業で配布している「お薦め絵本リスト」へ音声図書についての紹介を掲載していく。	家庭・地域学びの課
4	<p>12ページの「(3)家庭との連携による読書指導の推進」の具体的取組詳細「家庭読書の日の設定」について、家庭・地域学びの課の「長野市家庭の日」も十分に周知されていないので、この2つを別々に設定するのかどうかについても相談されると良いと思う。</p>	<p>【家庭・地域学びの課】 市立図書館と連携し、家庭への働きかけとしてより効果的な周知方法について検討していく。</p> <p>【市立図書館】 長野市の「家庭の日」に合わせて、「家庭読書の日」を月に1日設定して、学校と協力してその日は家族で本を読むようPRし、図書館でもその日読む本のコーナーを設置することを提案したい。</p>	家庭・地域学びの課 市立図書館

No.	意見・要望	対応・回答	担当課
5	<p>協力して下さる企業があれば、週に1回、または、月に1回でも昼休みに、大人向けの読み聞かせを放送するのはどうか。</p> <p>また、市役所の待合室のような大人の目につくところに、市長さんや市職員が子供の頃に読んだ本や、最近読んだ本を紹介するコーナーがあっても良いのではないかと思う。</p>	<p>【家庭・地域学びの課】 毎年11月3日の子ども読書デーに合わせ、市政ラジオでおひざで絵本事業、子ども読書デー、図書館分室の紹介を行っている。これらの内容の充実や回数の増加について検討して参りたい。</p> <p>【市立図書館】 放送を流すことは、長野図書館では難しい。大人に向けては「大人のためのおはなし会」を開催しているので、ぜひ参加してほしい。また、長野図書館ではテーマを決め、職員がお勧めする本を載せた冊子を年に2回作成しているので、それをPRしていきたい。</p>	家庭・地域学びの課 市立図書館
6	<p>FMで読み聞かせを流すということはできないか。確か、NHKの連ドラも元々はラジオであった。広がれば広がるほど著作権料が大変になるような気がするが、放送で聞くことができるというのも面白いかなと思う。</p>	<p>FMで番組を持つということは現時点では難しいと考える。家庭・地域学びの課では、毎年11月3日の子ども読書デーに合わせ、市政ラジオでおひざで絵本事業、子ども読書デー、図書館分室の紹介を行っている。これらの内容の充実や回数の増加について検討して参りたい。</p>	家庭・地域学びの課 市立図書館
7	<p>子どもの読書を推進するために、子どもを取り巻く環境としての大人の読書を推進する、ということであれば、音を聴くよりも文字を読むことに触れた方が良いのではないかと思った。</p>	<p>委員ご指摘のとおり、子どもが自ら情報を収集し考える力をつけていくために、文字を読む力を習得することは重要であり、また、子どもは身近な大人の姿を見て真似ることで物事を学んでいくことから、家庭で大人が本を読む姿を見せることが子どもの読書推進につながると考えられる。</p> <p>日々仕事や子育てに追われる大人にとって、本に親しむきっかけとしての音声図書は有効と考えるが、そこから文字を読む読書へとつなげていけるような働きかけの工夫を検討していきたい。</p>	家庭・地域学びの課
8	<p>これまでにナイトライブラリーというような取組は実施したことがあるか。家庭で本を読むとなると、スマホなど様々なものに気を取られてしまうが、「今日の夜は図書館の開放日だから、親子で行って一緒に本を読もう」と思うことで、忙しい日常の中で本に親しむ機会を作るきっかけとなるのではないかと思う。また、ただ本を借りてくるだけでは手をつけられないままの本が溜まってしまいが、ナイトライブラリーをきっかけに読み始めた本であれば、その後本を借りてきても、家で続きを読んだりするのかなと思う。</p>	<p>長野図書館は、平日は午後7時まで開館しているので、ぜひ利用していただければと思う。また、南部図書館では、篠ノ井のお祭りに合わせて開館時間を1時間延長し、「夜の夏休みこども会」として、怪談話など怖いお話を中心に読み聞かせや本の展示紹介等を行っている。こうした取り組みの中で、親子が読書に親しむ機会を提供していきたいと考える。</p>	市立図書館

No.	意見・要望	対応・回答	担当課
9	<p>子どもが通っている小学校(の図書館)に親子で行くことも良いと思う。一緒に図書館へ行くことによって、親が「自分が小学生だったときにはこういう本を読んでいたよ」とその子に合った本を紹介できると、子どもも素直にそれを手に取って読むことができるのではないかと思う。コロナ禍で学校に行くことは難しいと思うが、親が本を読んでいる姿を見せるだけではなく、子どものときに読んでいた本を紹介することも有効だと思う。</p>	<p>図書館司書や学校司書に限らず、多くの人に関わり、お勧め本を紹介する取り組みは、非常に面白い提案だと思う。コロナ禍になる前は、学校参観日の際に保護者に向けて図書館を公開していた学校もあった。今後は、コロナウイルス感染症の状況を見ながら、学校図書館長である学校長と相談し、参観日の際に親子で図書館を利用していただく等学校へ提案を行いたい。</p>	<p>学校教育課</p>
10	<p>高校生は図書館を勉強する場だと思っているが、本当はそうではないということPRしたい。 高校生が(図書館に)勉強をしに来たときに手に取りたくなるような文言で、ワンプーパーの文学読み碎きなどを市立図書館が作成・設置するのは難しいか。</p>	<p>高校生に向けてPRの検討したい。(ただ、今の高校生は紙媒体を持ち帰らないという意見もあり、高校生に対しどんな方法や内容が効果的なのかはこちらで検討させていただきたい。)</p>	<p>市立図書館</p>
11	<p>23ページの「長野市子ども読書デーにおける啓発活動の実施」について、市報を活用して読書デーだけではなく家族で読む本の紹介や、実際に家族で(本を)読んだ人の記事を掲載してはどうか。</p>	<p>【家庭・地域学びの課】 毎年、広報ながの11月号でおひざで絵本事業と長野市子ども読書デーの紹介を行っている。今後、内容をさらに充実させていけるよう検討していきたい。</p> <p>【市立図書館】 年2回、移動図書館の巡回日程を市報に掲載しているので、その時に合わせて掲載したらどうか。</p>	<p>家庭・地域学びの課 市立図書館</p>
12	<p>電子書籍と子ども達の1人1台端末との連携についてぜひ前向きに取り組んでいただきたい。</p>	<p>【市立図書館】 市町村と県による協働電子図書館の学校連携チームに参加し、検討していきたい。</p> <p>【学校教育課】 現在市と県で共同運営している、「デジとしよ信州」について、学校へ周知し、利用を促しているところである。 今回話題として取り上げられた「青空文庫」についても授業等で活用してもらえよう、機会を見て学校へ周知を行っていく。</p>	<p>市立図書館 学校教育課</p>